

《「新 輝け！ちば元気プラン」4年間の総括（25年度～28年度）》

基本目標	政策分野	施策項目	4年間の総括	
			4年間の主な成果・課題・新計画への反映	
Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備	1 千葉の輝く魅力づくり	① 光り輝く千葉の魅力为全国・海外に発信	<p>【4年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉の魅力がテレビ・ラジオで取り上げられた件数は、平成25年度から4年連続で目標を達成しています。また、知事のトップセールスや各種プロモーションなどを通じ、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物など、様々な分野で本県魅力を広く国内外に伝えることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催など、訪日外国人がますます増加することが予想されることから、外国人に対するより細やかな情報発信が求められます。 情報に触れる機会が多様化しており、発信手法の工夫がこれまでに必要になっています。 <p>【新計画への反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも、知事のトップセールスや時機をとらえた積極的な情報発信に努めるとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も視野に入れ、観光や県産農林水産物などの魅力の発信を進めていきます。 テレビやラジオ等だけでなく、若者を中心に普及が進むSNSなども活用し、より効果的な情報発信を図っていきます。 	 <p>千葉の魅力がテレビ・ラジオで取り上げられた件数</p> <p>トップセールス</p>
		② 国際交流の推進と海外取引・外国人誘客の促進	<p>【4年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィスコンシン州やデュッセルドルフ市との経済、学術・教育、文化・スポーツ等の様々な分野における積極的な交流事業展開により、本県の知名度の向上を図るとともに、国際交流を推進した結果、わずかに届きませんでした。目標をほぼ達成しており、県と連携し国際交流・協力活動を展開している団体数は着実に増加しています。 また、知事のトップセールスを契機に始まったタイマレーシアへの県産農水産物の輸出は、現地での「千葉フェア」の開催や見本市・商談会への出展支援等の継続的なPR活動により、梨やサツマイモ等の輸出が定着化してきています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック8競技の千葉県開催は、これまで以上に多くの国・地域との密接な関わりを本県にもたらすものと思われ、本県の国際的な知名度を高めるとともに、様々な分野で交流や展開を図っていくことが求められています。 本県に在住する外国人が13万人を超え、今後も更なる増加が見込まれる中で、互いの文化的な違いを認め合い、尊重し合いながら、同じ地域社会の構成員として、安心して暮らす働くことのできる多文化共生社会を実現していくことが求められています。 <p>【新計画への反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の強みを生かした国際施策展開を図るため、指針となる国際戦略を策定します。そして、国際交流・国際協力を進めるとともに、県内企業の海外取引、県産農林水産物の輸出、MICEの誘致等を促進します。また、外国人県民が安心して暮らし続けるための環境づくり、外国人県民の視点・ニーズを踏まえた情報提供や支援等の充実を図り、外国人県民にも暮らしやすい県づくりを進めます。 	 <p>県と連携し国際交流・協力活動を展開している団体数</p> <p>千葉フェア(タイ)</p>
		③ 成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化	<p>【4年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成田空港は、平成27年3月にLCCの拠点となる第3旅客ターミナルビルが完成したことにより、平成22年10月に合意した年間発着枠30万回化に向けた施設整備が完了したことに加え、LCCの相次ぐ新規就航などにより国際線・国内線の拡充が進み、平成28年度末には航空旅客数が過去最高の3,962万人を記録するなど、発着枠拡大の効果が確実に現われてきています。また、圏央道等の整備の進展により、県内外と成田空港の交通アクセスが向上しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、空港利用の更なる拡大を目指すとともに、成田空港と都心・羽田空港、首都圏各地や県内各地との交通アクセスの更なる改善を図り、これにより益々活発化する人・物・財の流れを生かし、官民が連携して観光や産業振興など、本県全体の経済活性化につながるための取組を進める必要があります。 成田空港の更なる機能強化の検討を進めるに当たっては、周辺地域との共生を図るとともに、広域的な地域づくりの検討を進めていく必要があります。 <p>【新計画への反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の発展可能性の大きな核である成田空港の更なる利用拡大と、これにより一層高まる波及効果を全県の経済活性化につながるための取組を進めます。併せて、成田空港と都心・羽田空港間や、県内外との交通アクセスの更なる改善を図ります。 成田空港の更なる機能強化の検討の動向なども踏まえつつ、関係団体と連携して、周辺地域の共生策を一層推進するとともに、地域経済の活性化などにより周辺地域との共栄を目指します。 	 <p>成田空港の航空旅客数</p> <p>成田国際空港</p> <p>提供：成田国際空港株式会社</p>
		④ 東京湾アクアラインと圏央道が拓く魅力ある地域づくり	<p>【4年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレ、駐車場などの観光関連施設の整備に対する助成や、「ちばアクアラインマラソン」を通じた本県魅力発信などにより、観光入込客数や宿泊者数の増加につながったと考えます。 企業訪問活動や知事によるトップセールス、造成中の2工業団地への視察ツアー、海外企業への直接営業活動などを実施し、本県の持つ優れた立地優位性の発信に努めた結果、4年間で新たに255件が立地するなど、企業立地数の増加につながりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連施設の整備については、補助金制度の認知度がまだ十分でないことから、市町村や民間事業者に対して広く周知を図る必要があります。 企業誘致は、近年、競合する隣接県等との誘致活動の激化など、本県を取り巻く環境は厳しさを増しています。 <p>【新計画への反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助対象の拡充や補助金制度の一層の周知を図り、トイレ、駐車場などの観光関連施設の整備を促進します。特に、民間トイレの整備については、補助率4分の3を継続して広く整備の普及を図ります。 様々な進出形態による企業の立地を促進するために、立地企業補助金制度の周知や有効活用を図るとともに、東京に並ぶ経済圏である関西地区に配置している企業誘致専門員により、関西地区からの企業誘致を推進します。 	 <p>観光入込客数</p> <p>東京湾アクアライン</p> <p>県内への企業立地件数</p>
		⑤ 千葉の「宝」を生かした観光立県の推進	<p>【4年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村や地域の要望等に応じて、観光関連施設の整備に対し助成を行うとともに、観光客の滞在の長時間化や宿泊客の増加を図るため、市町村等が行う宿泊滞在型観光推進の取組に対して助成を行いました。また、国内外からのお客様をお迎えする観光施設や宿泊施設等のスタッフを対象に、外国人観光客にも満足いただけるような先進的な「おもてなし」についての研修会を開催して観光振興を担う人材を育成しました。 インバウンド需要の高まりなどを受け、観光入込客数や宿泊者数は増加傾向にありますが、こうした県の取組も一定の貢献があったものと考えています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光による交流人口の拡大により地域経済を活性化させていくためには、多様化する観光客のニーズや目的に対応した観光振興を図っていく必要があります。 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、訪日外国人の一層の増加が予想されるため、今後とも積極的なインバウンドの推進を図る必要があります。 <p>【新計画への反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光マーケティング・リサーチの強化や観光産業に携わる質の高い人材の確保・育成を図るなど、観光産業の競争力の強化を推進します。 今後とも、各国・地域のマーケット需要に応じた訪日プロモーションの実施・訪日教育旅行の誘致など、訪日外国人の誘客に向けた取組を推進します。 	 <p>観光入込客数</p> <p>観光公衆トイレ</p>